



## 2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年11月8日

上場取引所 東

上場会社名 生化学工業株式会社

コード番号 4548 URL <https://www.seikagaku.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 水谷 建

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 杉山 大輔 TEL 03-5220-8950

四半期報告書提出予定日 2023年11月14日 配当支払開始予定日 2023年12月4日

四半期決算補足説明資料作成の有無: 有

四半期決算説明会開催の有無: 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切り捨て)

### 1. 2024年3月期第2四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年9月30日)

(1)連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	18,061	4.7	1,482	△43.2	2,327	△35.4	2,102	△33.1
2023年3月期第2四半期	17,258	△15.9	2,610	△56.8	3,600	△43.7	3,141	△37.4

(注)包括利益 2024年3月期第2四半期 5,021百万円(△2.9%) 2023年3月期第2四半期 5,173百万円(△16.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	38.54	—
2023年3月期第2四半期	56.32	—

(2)連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	79,620	71,544	89.9
2023年3月期	75,625	67,216	88.9

(参考)自己資本 2024年3月期第2四半期 71,544百万円 2023年3月期 67,216百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	13.00	—	13.00	26.00
2024年3月期	—	13.00	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	—	—	13.00	26.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

### 3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	36,100	7.9	1,300	△38.5	2,250	△26.7	2,600	16.2	47.66

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 有

※ 注記事項

(1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動): 無

(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用: 有

(注)詳細は、『添付資料』P.9「四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- |                      |   |   |
|----------------------|---|---|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : | 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更        | : | 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更         | : | 無 |
| ④ 修正再表示              | : | 無 |

(4)発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期2Q	56,814,093株	2023年3月期	56,814,093株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	2,253,631株	2023年3月期	2,273,029株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期2Q	54,549,160株	2023年3月期2Q	55,783,570株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

上記予想は、本資料の発表日現在において想定できる経済情勢、市場動向などを前提として作成したものであり、今後様々な要因により、予想と異なる結果となる可能性があります。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料は、2023年11月8日より当社ウェブサイトに掲載しています。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
(3) 研究開発活動 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	9
(セグメント情報) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（2023年4月1日～2023年9月30日）の売上高は、LAL事業における海外販売や関節機能改善剤ジェル・ワンの販売数量の減少があったものの、ロイヤリティーの増加に加え、国内医薬品や中国向けアルツの販売数量増により、前年同期と比べ4.7%増の18,061百万円となりました。

営業利益は増収の一方、原価率の上昇に加え、海外子会社等の販売費及び一般管理費の増加により、43.2%減の1,482百万円となりました。経常利益は35.4%減の2,327百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は33.1%減の2,102百万円となりました。

### セグメント別の売上概況

#### <医薬品事業>

##### ・国内医薬品（6,402百万円、前年同期比10.2%増）

関節機能改善剤アルツは、競合品からの切り替え施策が奏功し、医療機関納入本数は増加しました。当社売上高は、薬価引き下げの影響があったものの出荷数量増により増加しました。

関節機能改善剤ジョイクルは、出荷時期の調整により、当社売上高が減少しました。なお、本剤は2021年6月1日に安全性速報（ブルーレター）を發出しており、引き続き、販売提携先である小野薬品工業株式会社と連携のうえ、副作用報告等の情報収集や安全性に関する情報提供を積極的に行っています。また、専門家や医療機関等の協力を得ながら、原因究明に向けた臨床研究を実施しました。得られたデータを分析し、より適正使用に繋がる提案を継続検討していきます。

眼科手術補助剤オペガン類は、高齢化に伴う市場の成長基調に加え、競合品の限定出荷の影響により、医療機関納入本数は増加しました。当社売上高は、薬価引き下げの影響があったものの出荷数量増により増加しました。

内視鏡用粘膜下注入材ムコアップは、販売提携先の在庫調整により、当社売上高は増加しました。

腰椎椎間板ヘルニア治療剤ヘルニコアの医療機関納入本数及び当社売上高は減少しました。

##### ・海外医薬品（4,367百万円、同0.4%減）

米国における単回投与の関節機能改善剤ジェル・ワンは、2022年7月に行われた保険償還制度変更の影響により、現地販売本数及び当社売上高は減少しました。

5回投与の関節機能改善剤スバルツFXは、保険償還制度変更に伴う市場環境の変化により、現地販売本数は増加しました。当社売上高は、出荷時期の調整や円安により増加しました。

中国向けアルツは、前年同期に新型コロナウイルス感染症の再拡大に伴う主要都市でのロックダウンにより、受診率が低下した反動を受け、現地販売本数は増加しました。当社売上高は、前年第1四半期に包装資材の変更に伴い出荷がなかったことから、大幅に増加しました。

##### ・医薬品原体・医薬品受託製造（1,622百万円、同8.3%増）

医薬品原体の増加や、海外子会社ダルトン ケミカル ラボラトリーズ インクの医薬品受託製造等の円安により、当社売上高は増加しました。

これらに加え、ロイヤリティー（699百万円、同一%）の増加により、医薬品事業の売上高は13,091百万円（同12.0%増）となりました。

#### <LAL事業>

売上高は4,970百万円（同10.7%減）となりました。国内販売は、前年同期の大型装置の販売による反動のため、海外子会社アソシエーツ オブ ケープ コッド インクは、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う特需が収束したため、減少しました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）につきましては、現時点で見通すことのできる諸要素を織り込み、2023年5月12日に発表した2024年3月期連結業績予想を以下のとおり修正しました。

売上高は、LAL事業における海外販売が想定よりも減少した一方、中国向けアルツ及び国内医薬品が増加したことや円安効果もあり前回予想を上回る見通しです。

利益については、研究開発費や海外子会社等の販売費及び一般管理費が円安により想定よりも増加しましたが、医薬品等の売上増により、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は前回予想を上回る見通しです。

なお、研究開発費の予想は7,550百万円（前回発表の7,200百万円から350百万円増加）、対売上高比率（ロイヤリティー除く）は21.3%となります。

※ 2024年3月期第3四半期以降の連結業績予想の為替レートは、対米ドル130円から145円に変更しています。

※ 当第2四半期において、営業利益及び経常利益が通期の連結業績予想に達していますが、腰椎椎間板ヘルニア治療剤SI-6603の承認申請に向けた費用が第3四半期以降に集中することを見込んでいます。

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	32,550	100	1,550	1,450	26.59
今回発表予想（B）	36,100	1,300	2,250	2,600	47.66
増減額（B－A）	3,550	1,200	700	1,150	—
増減率（％）	10.9	—	45.2	79.3	—
（参考）前期連結実績 （2023年3月期）	33,456	2,114	3,069	2,236	40.49

(注) 上記予想は、本資料の発表日現在において想定できる経済情勢、市場動向などを前提として作成したものであり、今後様々な要因により、予想と異なる結果となる可能性があります。

## (3) 研究開発活動

当社グループは、世界の人々の健康で心豊かな生活に貢献するために、専門分野とする糖質科学に特化して、独創的な医薬品等の創製を目指しています。

当社が保有する糖質科学に関する基盤技術を応用展開し、既存領域における新規開発テーマや新規疾患領域を含む革新的な研究テーマの創出に注力するとともに、各種アライアンスを推進することで、今後の事業成長の鍵を握る新薬の早期かつ継続的な上市の実現を図っていきます。

当第2四半期連結累計期間における研究開発費の総額は3,410百万円で、対売上高比率（ロイヤリティー除く）は19.6%となりました。

研究開発活動の主な進捗状況は以下のとおりです。

・ SI-6603（腰椎椎間板ヘルニア治療剤、開発地域：米国）

2023年3月に第Ⅲ相臨床試験の追加試験における経過観察が終了し、同年5月に主要評価項目において統計学的に有意な改善効果を示すトップライン結果を取得しました。現在、早期の承認申請に向けた準備を進めています。

SI-6603は、コンドリアーゼを有効成分とし、椎間板内に直接注射する治療剤です。全身麻酔の必要がなく、手術療法と比較して身体的侵襲が小さいという特徴を有しています。1回の投与で腰椎椎間板ヘルニアの症状改善効果が期待できることから、新たな治療選択肢の提供を目指します。

・ SI-614（ドライアイ治療剤、開発地域：米国）

2022年5月より実施している第Ⅲ相臨床試験における主要評価項目において、統計学的に有意な改善効果が認められませんでした。この結果を受け、取得したデータの解析を進めるとともに、今後の開発方針について検討を行っています。

・ SI-449（癒着防止材、開発地域：日本）

2020年5月より実施している消化器外科領域におけるピボタル試験において、2023年7月に主要評価項目である術後癒着の有無及び副次評価項目である癒着の程度・範囲において、統計学的に有意な癒着防止効果を示す結果を取得しました。また、安全性についても、顕在化した問題は認められませんでした。

なお、適用範囲の拡大を目的とした婦人科領域におけるパイロット試験において、安全性と操作性に大きな問題は認められませんでした。今後、両試験で取得したデータの詳細解析及び販売提携先の選定の後、承認申請を目指します。

SI-449は、当社独自のグリコサミノグリカン架橋技術を用いて創製したコンドロイチン硫酸架橋体を主成分とする粉末状の医療機器です。水分を吸収し膨潤する特性を有しており、撒布後に手術創部と周辺組織の間でバリアとなることで、外科手術における術後癒着の防止効果が期待されます。本テーマは国内のみならず、グローバル展開を視野に入れて開発を進めていきます。

その他の研究開発活動については、重要な変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	23,451	18,042
受取手形	59	89
売掛金	6,349	8,471
有価証券	5,327	5,346
商品及び製品	3,469	3,158
仕掛品	2,698	2,936
原材料及び貯蔵品	3,303	3,830
その他	2,123	2,041
貸倒引当金	△73	△85
流動資産合計	46,710	43,832
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	20,471	20,969
減価償却累計額	△14,912	△15,306
建物及び構築物（純額）	5,559	5,663
機械装置及び運搬具	22,660	24,105
減価償却累計額	△20,536	△21,115
機械装置及び運搬具（純額）	2,123	2,989
土地	1,064	1,116
リース資産	103	134
減価償却累計額	△37	△51
リース資産（純額）	65	82
建設仮勘定	1,593	2,331
その他	5,801	5,965
減価償却累計額	△4,883	△5,022
その他（純額）	918	943
有形固定資産合計	11,325	13,126
無形固定資産		
のれん	2,094	2,244
その他	1,136	1,169
無形固定資産合計	3,231	3,413
投資その他の資産		
投資有価証券	13,232	17,090
退職給付に係る資産	853	887
その他	280	1,277
貸倒引当金	△7	△7
投資その他の資産合計	14,358	19,247
固定資産合計	28,915	35,787
資産合計	75,625	79,620

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	879	1,107
短期借入金	300	300
リース債務	37	37
未払金	3,315	2,034
未払法人税等	36	153
賞与引当金	624	661
環境対策引当金	113	126
その他	1,392	1,386
流動負債合計	6,699	5,808
固定負債		
リース債務	52	64
繰延税金負債	1,513	2,059
資産除去債務	36	37
その他	106	106
固定負債合計	1,709	2,267
負債合計	8,408	8,076
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,840	3,840
資本剰余金	5,301	5,301
利益剰余金	53,975	55,363
自己株式	△2,279	△2,259
株主資本合計	60,837	62,246
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,033	4,379
繰延ヘッジ損益	△14	—
為替換算調整勘定	2,937	4,542
退職給付に係る調整累計額	423	376
その他の包括利益累計額合計	6,379	9,298
純資産合計	67,216	71,544
負債純資産合計	75,625	79,620



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	17,258	18,061
売上原価	7,427	8,869
売上総利益	9,831	9,192
販売費及び一般管理費		
人件費	1,378	1,543
賞与引当金繰入額	177	182
退職給付費用	54	50
研究開発費	3,407	3,410
その他	2,202	2,523
販売費及び一般管理費合計	7,220	7,709
営業利益	2,610	1,482
営業外収益		
受取利息	14	66
受取配当金	177	200
為替差益	773	582
投資有価証券売却益	4	—
その他	26	30
営業外収益合計	995	880
営業外費用		
支払利息	3	2
支払手数料	2	2
事業構造改善費用	—	29
その他	0	1
営業外費用合計	5	35
経常利益	3,600	2,327
税金等調整前四半期純利益	3,600	2,327
法人税、住民税及び事業税	393	249
法人税等調整額	65	△24
法人税等合計	458	224
四半期純利益	3,141	2,102
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,141	2,102

（四半期連結包括利益計算書）  
（第2四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）
四半期純利益	3,141	2,102
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△435	1,346
繰延ヘッジ損益	△63	14
為替換算調整勘定	2,444	1,605
退職給付に係る調整額	85	△46
その他の包括利益合計	2,031	2,919
四半期包括利益	5,173	5,021
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,173	5,021
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、見積実効税率に係る法人税等調整額は、法人税、住民税及び事業税に含まれております。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	医薬品	L A L	計		
売上高					
国内医薬品	5,808	—	5,808	—	5,808
海外医薬品	4,384	—	4,384	—	4,384
医薬品原体・医薬品受託製造	1,497	—	1,497	—	1,497
ロイヤリティ	1	—	1	—	1
L A L	—	5,566	5,566	—	5,566
顧客との契約から生じる収益	11,692	5,566	17,258	—	17,258
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	11,692	5,566	17,258	—	17,258
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	11,692	5,566	17,258	—	17,258
セグメント利益	1,166	1,443	2,610	—	2,610

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	医薬品	L A L	計		
売上高					
国内医薬品	6,402	—	6,402	—	6,402
海外医薬品	4,367	—	4,367	—	4,367
医薬品原体・医薬品受託製造	1,622	—	1,622	—	1,622
ロイヤリティー	699	—	699	—	699
L A L	—	4,970	4,970	—	4,970
顧客との契約から生じる収益	13,091	4,970	18,061	—	18,061
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	13,091	4,970	18,061	—	18,061
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	13,091	4,970	18,061	—	18,061
セグメント利益	1,062	420	1,482	—	1,482

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。